

## マーシャル業務報告（ITUトライアスロンワールドカップ 2017/宮崎）

### ○スケジュール

11月3日（金）

9：00－10：00 ITUテクニカルオフィシャルMT ヒムカ/一ツ葉  
10：30－11：00 バイクセクションMT  
13：00－14：00 エリートバイクコース試走  
14：00－15：00 エリートスイムコース試泳  
17：30－19：00 ITUテクニカルオフィシャルMT ヒムカ/一ツ葉

11月4日（土）

6：30 ITUテクニカルオフィシャルMT 大会会場/TOラウンジ  
8：00 バイクコース設置 担当B10 地点  
9：00 エリート女子競技  
13：00 エリート男子競技  
16：00 ITUデブリーフィング 大会会場/TOラウンジ  
16：30－17：00 JITUテクニカルオフィシャルMT 大会会場/TOラウンジ

11月5日（日）

6：30 JITUテクニカルオフィシャルMT 大会会場/TOラウンジ  
8：00 バイクコース設置 担当B10 地点  
9：00－13：00 競技  
13：00－14：00 JITUミーティング 大会会場/TOラウンジ

○ 担当セクション・・・3日間ともバイクB10（周回折り返し地点）

○ 日程ごとの報告

11/3

バイク試走・・・周回で道路状態の悪い箇所をみつけた。砂利は箒で取り除き、でこぼこは大会当日朝にバイクチーフから業者に養生を依頼してもらい、ブルーシートを固定。

スイム試泳見学で気になったこと。

①くらげにさされた女子選手の一人が訴えていた。ドクターを探すなどして処置にかなり時間がかかっていた模様。あるマーシャルは、塗り薬はドーピングに引っかからないから問題ない、くらげの毒はお湯で抜けやすいとのこと。これは本当か？特にドーピングに問題ないかどうかはしっかり回答が欲しい。

②コースを大幅にそれた選手への対応。マーシャルによっても判断が異なっていた。スイム担当ではないあるマーシャルはすぐにレスキューを出すべきだと主張していたのに対して、別のマーシャルはビー

チから見て選手がしっかり泳いでいたし、SOS信号も出してなかったので対応する必要はないのではと話していた。結局、選手自身でコースに戻っていた。自分がスイム担当になった場合、どう対応すべきか悩んだ。

③選手同士の衝突。ビーチからの飛び込み時、男子選手と女子選手が衝突し、女子選手がしばらく水のなかで倒れていた。それを見ていた外国人マネージャー（国籍不明）からドクターを行かせたほうがいいのではと声をかけられた。英語が良くわからなかったので、すぐに英語の話せるマーシャルへ対応してもらい、スイム担当マーシャルへ連絡、当選手に状態を確認していた。多くのスイム担当マーシャルが、衝突現場をみていたが、その外国人マネージャーの訴えがあるまで特に動く様子はなかった。どのような判断でそうしたのか？疑問に残った。

11/4

①ホイールステーション担当者が今回始めてとのことで、設置がわからなかった模様。昨年の設置をたまたま撮影していたマーシャルがいたため、その写真を見ながら設置して助かった。

②マーシャルとしてリタイヤした選手のアンクルバンドを回収する必要があるが、目の前でバイクを止めまだぜいぜい息のあがった選手に、リタイヤか確認し、いきなり「アンクルバンド」と言うにはしのびなかった。どのような言い方があるのか？

11/5

①バイクで周回コースと終了コースに、分岐する案内看板が1枚しかなくわかりづらかった。ガムテープで道に案内を表示したり、競技中はマーシャルが声かけしていたが、まちがった選手が数名いた。同じセクションのマーシャルとも話したが、200～300メートル前から何枚かラミネートで作った簡易案内をはっておくとわかりやすいのでは。「周回は左へ」「終了は右へ」の表示。

その他の提案

今回、一般向けにITUトライアスロンコースのウォーキング企画があり、親子で参加していたと聞いています。

とても良い企画だと思うので、是非、佐賀トライアスロン協会でも検討して欲しい。

以上



ホイルカーテン

